

国立研究開発法人水産研究・教育機構  
平成 29 年度 契約監視委員会（第 4 回）議事概要

1. 日 時 平成 30 年 3 月 26 日（月） 14：00～16：00

2. 場 所 クイーンズタワー B 棟 7 階 D 会議室（神奈川県横浜市西区みなとみらい 2-3-3）

3. 出席者

委 員	蒲池 孝一	公認会計士
委 員	森 哲哉	公認会計士
委 員	苑田 浩之	弁護士
委 員	林 義亮	神奈川新聞社 取締役論説主幹
委 員	前 章裕	(研) 水産研究・教育機構 監事
委 員	榎本 一高	(研) 水産研究・教育機構 監事

(研) 水産研究・教育機構事務局

4. 議題 ①平成 29 年度第 2、3 四半期の契約実績及び入札等に関するアンケート調査結果  
②平成 29 年度第 2、3 四半期の契約の抽出案件  
③その他

5. 議事概要

・委員長の選任

任期満了により平成 30 年 2 月 1 日付けで委員が改選されたことに伴い、国立研究開発法人水産研究・教育機構契約監視委員会運営要領第 2 条第 3 項に基づき、全委員による委員長の互選が行われ、蒲池委員が委員長として選任された。委員長事故時の委員長職務代行者として、林委員が指名された。

・議題①平成 29 年度第 2、3 四半期の契約実績及び入札等に関するアンケート調査結果

契約実績、競争性のない随意契約及び一者応札・応募の類型別内訳、類型別の平均応札者数及び平均落札率、アンケート調査結果を踏まえた入札改善策などについて資料に基づき説明があった。

○一者応札が減少した要因の説明で用船契約が第 1 四半期契約に前倒しとなったこととあったが、その主な理由は何か。

→用船契約が早まった理由は、各事業の調査開始時期が早まったためである。

○外国雑誌の契約でも、一者応札の改善に繋がったとあったが、契約監視委員会の指摘を踏まえしっかり取り組んだ結果と見てよろしいか。

→そのとおりである。昨年の契約監視委員会での指摘を踏まえ、一つの契約を 5 つに分けて入札した結果、4 件の入札で複数応札となり、結果的に競争性が高まったと考えている。

・議題②平成 29 年度第 2、3 四半期の契約の抽出案件

抽出審議案件の契約の内容について説明があり、それぞれ審議を行った。

「議題②平成 29 年度第 2、3 四半期の契約の抽出案件」について、抽出審議案件 10 件にかかる主な質疑応答は以下のとおり

(競争性のない随意契約)

**【随契2】 トリチウム用燃焼炉コンプリートシステム (中央水産研究所)**

○高額機器を購入する際、高性能品を選定している事が多々あるが、特定の機種が選定されるよう仕様書に必要な以上の要件を定めていないかについて、研究所内部での手続方法はどのように工夫しているか。

→中央水産研究所内の契約審査委員会にて検討を行っている。また、本件については、本部の契約審査委員会にて審査されている。

(競争性のない随意契約)

**【随契24】 塩分水温自動測定装置点検整備業務 (日本海区水産研究所)**

○塩分水温自動測定装置本体の導入時は入札による契約か。

→平成12年、及び平成14年購入の物であり、当時の契約方式は書類保存年限が経過し、廃棄されているため確認が出来ないが、機種は適切に選定され、導入されたものと考えている。

○契約時期が古く、購入当時は保守点検を予想できなかったことは判った。今後は機器導入時に保守を含めた契約を行うことを検討してほしい。

(競争性のない随意契約)

**【随契29】 平成29年度超高濃度汚染魚発生状況の把握とセシウム代謝に関わる飼育試験 (中央水産研究所)**

○本件役務は複数年にわたり継続している案件か。そうであれば複数年契約を検討したことはあるのか。

→本件は、平成 24 年度当初水産庁事業として福島県に再委託していた案件であり、その後復興交付金課題として継続している。しかし、対象となる魚種は前年度の結果を判断した後、当年度の対象となる魚種を決定し、変更されていくため、複数年契約を行うことは難しい。

(複数応札)

**【57】 遺伝子自動解析システム (国際水産資源研究所)**

○業者参考見積によらず、納入実績等を基に作成した予定価格の作成手法は評価できる。手間はかかるだろうが、今後も工夫をお願いする。

○システムとして一式で購入しているが、機器すべてを制御するソフトウェアがあるのか。

→シーケンサーの制御ソフトはあるが、構成機器は、単体でも調達できる。今回は一

式として調達した。

(一者応札)

**【72】超高速クロマトグラフィー用ポンプ送液システム（中央水産研究所）**

○予定価格の作成に当たり、平成22年度機器導入時の価格と比較しているのか。  
→超高速クロマトグラフィーの構成機器の一部であるため、単体での導入価格としては実績がないので、比較資料としては使用しなかった。

(一者応札)

**【98】マルチスタックモジュールほか（増養殖研究所）**

○平成28年度に購入しているオールインワン顕微鏡に装着するものということだが、当時の契約形態と応札者は何者か。  
→一般競争入札を行っており、当時の応札者は2者である。

(一者応札)

**【129】増養殖研究所南勢庁舎海水取水管更新工事（本部施設整備課）**

○設計は外部委託か。また設計と工事で複数年にまたがるものか。  
→設計は委託により設計会社に依頼している。単年度で設計から施工まで行っている。  
○入札条件に「同様の実績を有する」としている理由は何か。  
→周辺養殖場等に与える影響を勘案した施工ができることを重視し、海中工事の経験のある業者であることを入札条件とした。また、入札参加資格の資格審査区分の業種が管工事であり、水道管敷設業者も含まれることから、これらは本工事には適当でないことも、入札条件を付した理由である。  
○業者の選定は当該地域周辺に限定して行ったか。  
→地域限定はせず、全国を対象としている。

(一者応札)

**【149】練習船耕洋丸コンパステッキ甲板張替及び第1教室浮き床材張替業務（水産大学校）**

○工期次第では複数者の応札が可能ではないか。定期ドック時に施工は出来なかったのか。特殊な建材を使用しているのか。  
→工期確保できる時期であれば、恐らく複数者応札は可能である。定期ドック以降に張替が必要であることが判明したため、この時期に施工せざるを得ず、1者しか対応できなかった。  
従来材質はイロコ材であり、8～10年の耐用年数がある。張替後はより低廉で耐久性のある人工甲板を使用している。

(二か年連続一者応札)

### 【181】動物プランクトン分析業務（東北区水産研究所）

○本件落札者は他の分析業務においても多数落札しているように見受けられる。1者応札となった理由は何か。

→6者が入札説明書を受領しているが、入札前に事前の査定テストを行い、テストの合格者のみが入札に参加できるようにしている。過去に査定テストを行わず、価格だけで決定した際には、まともなデータが報告されず、何度もやり直した。今回の査定テスト合格者は落札者のみである。入札に関するアンケートでは査定テストを受ける時間的余裕がないとの回答があったことから、公告期間を長くする改善を行いたい。

○他者への声かけを継続してほしい。査定テスト合格者であることが入札参加資格としてあるが、このような参加資格の求めは恣意性をもたないようにしていく必要がある。落札業者以外の業者を育てることも考慮するなど、応札者を増やす、更なる工夫をお願いする。

### （複数応札）

### 【225】漁業練習船「天鷹丸」売り払い（水産大学校）

○練習船には漁労設備があるが、売却先によって国内漁業の圧迫に繋がるものとならないか、チェックしているか。

→用途限定はしていないが、本船は調査船では無く練習船であるため、居住スペースが大きく、魚艙は小さいため、漁業に使用するには改装が必要であり、そのコストが多額となることから、漁業で使用されるようなことは無いものと考えている。

○応札者数、公告期間はどのくらいか。

→応札者は4者あり、公告期間は24営業日である。

○予定価格の算出はどのように行っているか。

→船価は民間精通者による鑑定評価額を用いており、妥当と考える。

○条件を考慮すると応札者数はもっとあっても良いように思える。今後は公告について、情報の広範な周知を行うよう検討をお願いする。

### ・議題③その他

次回の委員会は平成29年度調達合理化計画の自己評価及び平成30年度調達合理化計画の点検になり、開催日は5月中旬を予定していること、4月上旬に事務局から各委員へ日程調整の連絡を予定している旨、事務局から連絡があった。